

G 3 部 会 の 研 究

主 題

基礎・基本の習得を図るための指導法の改善

1 主題設定の理由

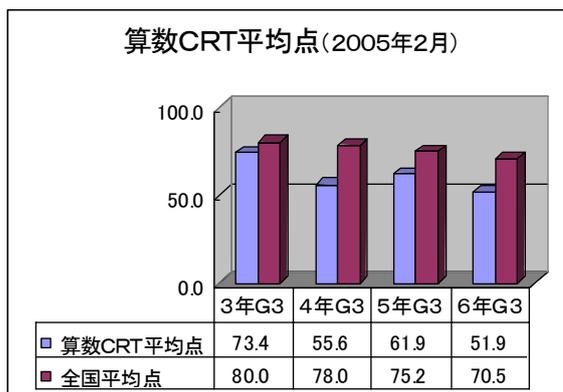
(1) 児童の実態から

G3グループの児童は、少人数の中でじっくり学習することを楽しみにしており、意欲的に学習に取り組んでいる。また、自分の力で問題を解いたり、理解できたことについてはさらに多くの問題に挑戦しようとする児童が多い。しかし、算数の学習に進んで取り組もうとする意欲は高いものの、既習事項が定着していなかったり学習内容以前の段階でつまずきがあったりするために、授業内容が理解しきれない児童も少なからず存在するという実態がある。そのため、CRTの結果はすべての学年で全国平均を下回っている。その主な原因としては、以下の理由が考えられる。

- ・前学年までに身につけておくべき基礎・基本が十分に習得されていないという点が挙げられる。少人数での学習により一人一人に対して手厚く指導ができるため、学力は確実に伸びてきているが、まだ十分満足いくところまでには高まっていない。
- ・既習事項を生かしながら解決方法を考えることが苦手な児童が多いことが挙げられる。そこで、学習の振り返りを随時取り入れたり、自力解決につまずいた時には、児童の実態に応じた教師のきめ細かな支援を行ったりする必要がある。
- ・自分の考えを説明したり友達の考えを筋道立てて聞き取ったりすることが難しい児童が多いことが挙げられる。そのため、発表を中心とした学び合いの授業では理解が深まらない場合が多く、教師の支援のもとに発表させたり学習事項を整理したりしていくことが重要になる。

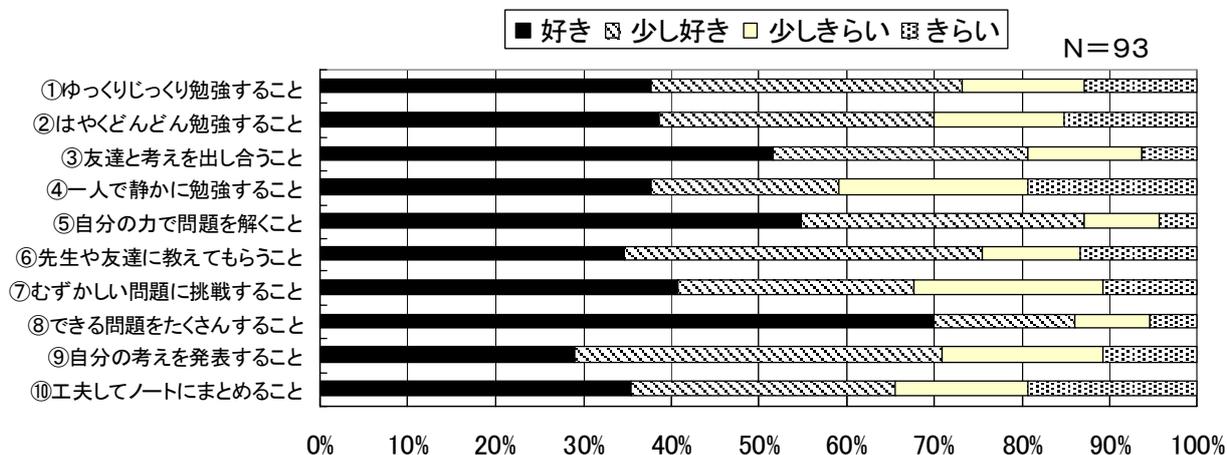
(2) 学びのタイプから

- 学習ペースに関しては、「ゆっくりなペースが好き」な児童と「はやいペースが好き」な児童がほぼ同数になっている。
- 学び合いに関しては、「友達と考えを出し合うことが好き」な児童は半数を超え、「少し好き」を含めると8割を超える。
- 課題の自力解決に関しては、「自分の力で問題を解くことが好き」な児童は「少し好き」も含めると9割近くを占める。
- 問題の難易度に関しては、「できる問題をたくさんすることが好き」な児童は7割を占めるが、「難しい問題に挑戦することが好き」な児童は、4割程度である。
- 自分の考えの表現方法に関しては、「工夫してノートにまとめることが好き」な児童と「自分の考えを発表することが好き」な児童は、どちらも3割程度にとどまっている。



※CRTの平均点は、各学年とも前学年の2月に実施した結果である。

G3グループ(3~6年) 学びのタイプ調査結果 (2005. 7)



学びのタイプの調査結果から、G3は10人程度の少人数グループながら様々なタイプの児童が混在していることが分かる。そこで、学習状況とともに一人一人の学びの特質についても十分に把握しながら指導に当たれば、学習意欲も高めることができると考える。

以上のことから、G3部会では、一人一人の学びを成立させ、算数の基礎・基本を習得させることを主たるねらいとして、本主題を設定した。

2 育てたい力

関心・意欲・態度	数学的思考
<ul style="list-style-type: none"> 算数の楽しさやよさを感じながら、進んで学習に取り組むことができる。 既習事項を日常生活の課題解決に役立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の事象と関連づけて考えることができる。 図や絵を用いて解決方法をイメージすることができる。 具体物や絵図を使って自分の考えを表現したり発表したりすることができる。
表現・処理	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 計算、作図、測定、表やグラフ化などの作業が丁寧にできる。 基礎的な問題を正確に処理することができる。 既習事項を生かして、問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形について豊かな感覚をもつことができる。 意味や性質について正しく理解することができる。 学習事項を習得することができる。

3 主題に迫る手だて

(1) 指導計画の工夫

①グループの実態に応じた指導計画の作成

- 基礎・基本の習得に重点をおき、内容を精選して指導計画を作成する。

②学び直しの時間の設定

- 基礎的な内容を反復練習したり、振り返ったりする時間を指導計画の中に盛り込む。

(2) 指導方法及び指導過程の工夫

①復習の時間の設定

- 授業の始めに前時までの既習事項を復習し、本時の学習活動に対してスムーズに取り組めるようにする。

②課題提示の工夫

- 学習課題を実態に応じた内容や数値にし、児童がより取り組みやすいようにする。

③自力解決に導くための工夫

- 具体物や半具体物を用いた操作活動を個に応じて取り入れることにより、抽象的な内容を具体的にイメージさせ、理解を深めさせる。
- 色分けしたり図式化したりしながらノートを取ることで、学習内容を振り返ったり自分の考えを整理したりできるようにする。

④児童の考えを生かした学び合いの工夫

- 自分なりの考えを持ち、それを説明できるようにする。
 - *自分の考えが書ける。
 - *自分の考えが発表できる。
 - *友達の考えと自分の考えが同じか違うかが分かる。

(3) 評価の工夫

①一人一人の考えや学習状況を見取るための工夫

- 机間指導を重視し、個々の児童の学習に対する取り組みの様子や理解度を把握する。また、座席表に考え方や理解度を記録することで一人一人の学習状況を見取り、個に応じた支援を行ったり学び合いを深めさせたりする。

②学びの振り返り

- 授業時間の最後に確かめの問題をしたり、ノートに一言感想を書かせたりすることで、学習の習得状況を確認する。

③学習チェックカードの活用

- 学習チェックカードに記録し累積することで、一人一人のつまづきや習得状況を把握し、指導に生かしていく。